

OSAKA KYOIKU UNIVERSITY

大阪教育大学

■ 大学院教育学研究科 ■ 特別支援教育特別専攻科

2020

2020年4月入学者用

さまざまな職業分野で課題解決能力を持って 主導的立場を担える人材の育成

大阪教育大学は、明治7年に設置された教員伝習所を起源とし、140年以上の歴史と伝統をもつとともに我が国有数の規模を誇る教育系大学です。開学以来、常に教育の最前線に立ち、教育界に対してできること、学校現場に対してできること、子どもたちの未来に対してできることを探究しつつ、多くの卒業生を輩出してきました。

大学院教育学研究科(修士課程)は、専門分野における理論と応用の研究能力と、教育実践の場における教育研究の推進者としての能力を養成することを目的として、昭和43年に開設された大学院で、昨年開設50周年の節目を迎えました。これを機に、本研究科は大きな改革を行うことになりました。

具体的には、今年度より、教育学研究科の教員養成課程に基礎を置く14専攻は本学教職大学院と一体化することになり、そこでは高度な実践的指導力の育成に主眼を置き、教職を深く理解するとともに、教科の専門性を基盤にして、複数教科を連携させた教育や、複雑化する社会のさまざまな問題に対応できる教員の育成をめざします。

教養学科に基礎を置く4専攻(国際文化専攻、総合基礎科学専攻、芸術文化専攻、健康科学専攻(夜間))ではこれまでと同様、各分野の先導的研究をもとにそれらが融合した学際的知見を修得し、現代社会の多様な課題に対応できる探究能力を養い、さまざまな職業分野で課題解決能力を持って主導的立場を担える人材の育成をめざします。

実際、4専攻の修了生には、教員以外にも、研究者、企業経営者、芸術家など、社会のいろいろな分野で大活躍されている方々が多くいます。

私たちは、これからも多様なニーズに対応し、社会や地域に広く貢献するため、社会人、外国人留学生の受入れを、引き続き積極的に進めてまいります。主体的に学び、高い研究力・技能を持ち、これからの自らの人生を前向きに切り拓いていこうとする方々の入学をお待ちしております。

PROFILE

大阪教育大学 大学院教育学研究科主任
教育協働学科長

安部 文司 Bunji Abe

1978年京都大学法学部卒業、1989年フレッチャ―法律外交大学院法律外交修士課程修了、MALD(法律外交修士)、1994年京都大学大学院法学研究科政治学専攻修了(修士(法学))、1996年大阪教育大学助教授に採用され、2005年同教授、2015年教養学科長、2017年教育協働学科長を経て現職(併任)。その間、2002年-2003年ハーバード大学ライシャワー研究所客員研究員として従事。

3つのポリシー

アドミッション・ポリシー

国際文化専攻

1. 基本理念・目標

国際文化専攻では、日本・アジア・欧米の言語、社会、文化及びその交流などについて専門的・体系的な知識を修得し、多様な文化を理解できる、国際性豊かな人材の養成を目的としています。

2. 求める学生像

- ・それぞれの分野における専門的な研究に興味がある人
- ・研究の成果を生かして国際的に活躍することを志す人

総合基礎科学専攻

1. 基本理念・目標

総合基礎科学専攻では、数理科学と情報科学の高度な素養とともに、幅広い自然科学の知識を備え、総合的な視野に立って21世紀の科学や技術の最先端を担う創造性豊かな人材を育成します。また、数理科学、情報科学、自然科学の分野において、その専門知識を駆使して社会で高い指導力が発揮できる教育・研究を行うことを目的としています。

2. 求める学生像

- ・数理科学、情報科学、自然科学の分野の研究者をめざす人
- ・科学の高度な専門知識を学ぶことにより、最先端の科学や技術の修得をめざす人
- ・専門知識を駆使して、科学や技術の諸問題に積極的に取り組みたい人
- ・専門知識を駆使して、企業や一般社会で高い指導力や行動力を発揮したい人
- ・高度な科学技術の修得の経験により、学校現場で生徒を十分に指導でき、また新しい教材開発ができる能力を修得したい人

芸術文化専攻

1. 基本理念・目標

芸術文化専攻では、芸術の諸領域、とりわけ音楽と美術(書道を含む)の二大領域において、実践と理論との両面から研究を推進しています。したがって本専攻は、「音楽研究コース」が「器楽」「声楽」「作曲」「音楽学」の4教育研究分野に、「美術研究コース」が「造形表現」「書道」「芸術学」の3教育研究分野に分かれており、それぞれの分野で高度な専門的素養を備えた演奏家、造形作家、研究者など、芸術文化の第一線を担い得る指導的人材を育成します。

2. 求める学生像

- ・西洋近代音楽を基礎に、その演奏、解釈、作曲などの課題を追求したい人
- ・西洋音楽の歴史的研究や東南アジアなどの民俗音楽研究に携わりたい人
- ・現代の芸術状況を踏まえて、絵画、立体、ビジュアルデザイン、映像表現、書道などで創作活動をした人
- ・古今東西の芸術諸ジャンルにおいて歴史的研究、体系的研究を志す人、美学研究を志す人
- ・既存の芸術分野を越えて、広い視野から芸術のプロモーターとして活躍したい人

健康科学専攻(夜間)

1. 基本理念・目標

健康科学専攻では、人間生態学、心身健康学、生涯教育学・図書館情報学、発達人間学、スポーツ、生活科学、職業科学の諸分野に

おいて健康にかかわるテーマを多角的に追究し、その専門知識により社会で高い指導力が発揮できる人材を育成します。本専攻は、主として社会人を対象に夜間開講しています。

2. 求める学生像

- ・各種医療職、教員、栄養士、福祉職、生涯学習関連職、司書、スポーツインストラクターなどそれぞれの職においてキャリアアップをめざしている人
- ・学部卒業直後に学部で学んだことをさらに深め、将来それを生かした職に就きたいと思っている人

ディプロマ・ポリシー

大学院教育学研究科

所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けることによって、様々な職業分野で中核的役割を担える人材と認められる者で、学位論文審査及び最終試験に合格した者に学位として、「修士(学術)」または「修士(芸術)」を授与します。

また、様々な職業分野で中核的役割を担える人材として必要とされる資質能力について、下記のとおり専攻ごとに分類しています。

健康科学専攻、総合基礎科学専攻、国際文化専攻

取得できる学位：修士(学術)

1. 社会における多様な現代的諸課題に応えうる高度な専門的知識と能力に基づく総合的実践力
2. 学士課程で培った基礎能力を一層高め、専門的職業における社会・研究活動に活かせる研究能力
3. 修得したことを活かして、社会において中核的役割を担い、多様な現代的課題解決のために協働できる能力

芸術文化専攻

取得できる学位：修士(芸術)

1. 芸術文化における多様な現代的諸課題に応えうる高度な専門的知識と能力に基づく総合的実践力
2. 学士課程で培った基礎能力を一層高め、専門的職業における社会・研究活動に活かせる研究能力
3. 修得したことを活かして、芸術文化において中核的役割を担い、多様な現代的課題解決のために協働できる能力

カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

大学院教育学研究科

広い視野に立って精深な学識を修め、専門分野における理論と応用の研究能力を養成するため、カリキュラムは以下の科目で編成・実施します。

1. 様々な職業分野で中核的な役割を担いうるための高度な専門的知識の修得と、技能の向上を目的とする科目
2. 複雑かつ多様な課題に対応できる研究能力、課題解決のために協働できる能力の修得を目的とする科目

国際化が進む現代社会の多様な課題を担える人材を育成

国際文化専攻

目的

国際文化専攻では、世界の諸地域の文化、とりわけ日本、中国、イギリス、フランス、ドイツ、東欧、アメリカを主たる対象とした言語・文化・歴史・地理・社会・政治・経済・思想についての個別研究、並びにこれら諸地域の文化交流や国際関係などの研究を専門的なレベルで進め、それらの研究を通じて、国際化が進化する現代社会の

多様な課題を担える人材を育成することを目的としています。そのため、言語文化と文化研究の2つのコースを設け、専門的な研究を通じて得られる正確で体系的な知識に基づき、多様な文化を理解できる国際性豊かな人材、並びに斬新な発想と旺盛な行動力で国際的に活躍できる人材を育成することを目指します。



取得可能な免許状

- 中学校教諭専修免許状 [国語、英語]
- 高等学校教諭専修免許状 [国語、英語]

教員紹介

コース名	分野名	所属教員氏名 (2019年4月1日現在)	専門分野
言語文化コース	日本・アジア言語文化研究	石橋 紀俊	日本近現代文学
		小野 恭靖	日本古典文学
		櫛引 祐希子	日本語学
		中野 知洋	中国近現代文学
		佐藤 一好	中国古典文学
	英米言語文化研究	家木 康宏	英語学
		松本 マスミ	英語学、言語学、統語論、意味論、言語理論と英文法
		ギンズバーグ ジェイソン ロバート	言語学理論、統語論、計算言語学、自然言語処理、応用言語学
		ブラウン ロバート サンボーン	異文化コミュニケーション
		橋本 賢二	米文学
ヨーロッパ言語文化研究	安部 文司	国際政治学、外交史、アメリカ研究	
	馬 暁華	アメリカ研究、国際関係史、米国外交史、米国とアジアの国際関係	
	亀井 一	ドイツ文学・文学理論	
	井上 直子	フランス語、フランス語文学	
	※日本・アジア文化研究	西村 貴裕	基礎法学
文化研究コース	欧米文化研究	辻本 英和	自然地理学とくに岩石海岸の地形
		赤木 登代	ドイツ文学とくにドイツ近代文学における女性像
		高山 新	財政学とくにイギリスの租税学説史
		渡邊 昭子	歴史学とくにハンガリー近代社会史
		井上 直子	フランス文学とくにポール・ヴァレリーを中心とする美学、詩学、文明論

※「日本・アジア文化研究分野」は、令和2年度、院生の募集を行いません。

概要・特色

本専攻は、本学の教養学科に基礎をおく大学院の専攻としては、唯一の文科系(人文系・社会科学系)の専攻です。

本専攻では、言語文化コースと文化研究コースの2つのコースを設けています。言語文化コースは、さらに3分野、すなわち、日本と中国の言語や文学を探究する「日本・アジア言語文化研究分野」、イギリスとアメリカの言語・文学・地域研究を探究する「英米言語文化研究分野」、ドイツとフランスの言語や文学を探究する「ヨーロッパ言語文化研究分野」からなり、文化研究コースは、次の2分野、すなわち、日本と中国の思想・文化・地理を探究する「日本・アジア文化研究分野」と、東西ヨーロッパ及びアメリカの歴史・社会・文化・政治・経済について探究する「欧米文化研究分野」からなります。

本専攻においては、各分野の専門的な研究を通じて体系的な知識を身につけることができるのと同時に、分野横断的に幅広くさまざまな研究に触れ、多彩な知的刺激を受けることもできるようになっています。

国際文化専攻は、2コース5分野に分かれており、あわせて20名の専任教員が所属しています。必要に応じて、学内の兼任教員に加わっていただくこともあって、専攻の規模に比して質的な陣容となっています。各教員は、それぞれの専門の研究を深めており、学生は、各教員のもとで、その専門を深く掘り下げて学ぶことができます。また、教員の研究分野は、全教員あわせればきわめて広く、多彩で多岐にわたりますので、学生も自分の所属する分野を超えて、多様で幅広い研究分野について学ぶことができます。まさに教養

学科に基礎をおく大学院にふさわしい、T字型人材(自分の専門は深く、教養は幅広く)の育成にかなった専攻といえます。このようにして、国際文化専攻では、自らの専門についての深い学識を持ちつつ、多様な文化を理解し、多様な文化と共生できる国際性豊かな人材、また斬新な発想と旺盛な行動力で国際的に活躍できる人材を育成することを目指しています。

また、教員養成系大学にある大学院として、すでに教育職員の一種免許を取得している学生は、国際文化専攻で専修免許状を取得することもできます。取得済みの一種免許の種類と、所属する研究分野により、中学校及び高等学校の国語、英語の各専修免許を取得することができます。

各分野の概要と特色

	言語文化コース			文化研究コース	
	日本アジア言語文化研究分野	英米言語文化研究分野	ヨーロッパ言語文化研究分野	日本アジア文化研究分野	欧米文化研究分野
概要	日本アジア言語文化研究分野では、日本および中国を中心とする言語文化のさまざまな側面を総合的かつ歴史的に研究することができます。今グローバル化する世界のなかで求められているのは、異文化を理解し、そして自国文化を理解しながら、その違いを認め合うことで共通の理解を形作っていくことです。そのためには語学力を前提としながらも、さらに言語を文化として捉え、深く探究することが欠かせません。この研究分野は、日本語・日本文学、中国語・中国文学を二つの柱としながら、それぞれの言語文化を解釈、読解し、洞察を深め、論理的に表現する力を養います。	英米言語文化研究分野では、英米の言語・文化・社会について多様な観点から学ぶことができます。いわゆる「英文科」と同じように英語学・言語学、米文学の研究をすることもできます。それだけではなく、もっと広く異文化コミュニケーションやアメリカについての地域研究・国際政治といった分野の研究もできます。アメリカ人の専任教員もおり、英語圏の文化にじかに触れながら、最新の知見に基づく刺激的な研究をするもよし、また附属図書館などの豊富な文献を使って100年前、200年前の英語文化の香りを楽しむもよし。英米の言語と文化に浸れる環境が整っております。	ヨーロッパ言語文化研究分野は、フランス語圏、または、ドイツ語圏の地域文化を研究することができます。世界は、一つの価値観に統合されるような均質な空間ではなく、多様で、断片的で、しばしば相矛盾する人間の営みの総体です。言語文化論は、言語で世界を切り出してきます。言語は、表現、創造の場でもあれば、記録、記憶の集積でもあり、それぞれの言語を使う人々に固有な生活、考え、世界観の基盤になっているのです。言語文化には、文学、芸術、社会のさまざまな現象が含まれます。どこから入ってもかまいません。目指すところは、フランス文化、ドイツ文化の理解であり、世界、人間についての深い洞察です。	日本・アジア文化研究分野は、「地理学」「法学」の2名の専任教員しかおりませんので募集を停止しております。	欧米文化研究分野は地域・専門分野を異にする5名の教員によって構成されています。対象とする地域は、イギリス、フランス、ドイツ、そして東欧、研究領域は、政治経済、歴史、文化、社会です。現代社会は、グローバル化の進展により異文化間の交流がすすみ、多くの情報が飛び交う、いわゆる「情報化社会」です。そのような社会に生起する課題は複雑であり、ひとつの地域、あるいはひとつの学問領域の視点から検討するだけでは十分ではありません。つまり、国際的な視野に立つて多様な学問領域から考察することが求められています。欧米文化研究分野では「多様性 (diversity)」をキーワードとして、学際的な視点から人文・社会科学に関するテーマを探究していきます。
修士論文における研究例	修士論文では、日本の和歌・歌謡文学、物語文学等々の古典、明治から昭和、平成を含む近現代の作家・作品、日本の言語に関わる諸問題、中国に関しては古典漢文から日本漢文まで、さらには台湾も含めた近現代の作家・作品、日中の比較文学的研究等々、多彩な研究テーマを選ぶことができます。またこの研究分野の大きな特色の一つとして、大阪教育大学日本・アジア言語文化学会を組織し、毎年学会活動を行っていることがあります。この学会は、学部卒業生を含む多くの先輩たちと教員や在学生とが、継続的に交流し研究を深める貴重な場となっています。	英米言語文化研究分野の教員には英語のネイティブスピーカーもいます。また修士論文は教員の指導を受けながら英語で作成しますので、英語の論文を書くノウハウを身につけることもできます。これまでの修士論文のタイトルには、「Dead or Alive: On the Conventionality and Creativity of Metonymy」や、「Recognizing Cultural Differences between Japan and English-Speaking Countries」などがあります。	ドイツ関係の修士論文には、ヨーロッパ文学の伝統を視野に入れたゲーテの『浮城物語』の研究や、カフカのテクストをめぐる物語論的分析があります。また、ギュンター・グラスの文学作品を通して、ポーランドの少数民族カシュープ人の歴史文化を考察するといった応用的な研究も出ています。フランス関係では、語り (narration) の観点から分析したフロアベールの『純心』論、ゾラの小説『ナナ』『居酒屋』などを扱った作品論、また、本学の交流協定校ジャン・ムラン大学のあるリヨンには映画発祥の地ですが、その初期のリュミエールの映画を扱った分析『初期リュミエールの映画作品』論などもあります。	募集はしていませんが、他分野からの科目履修は可能です。過去の修士論文タイトル(例) 江戸時代の絵画から中国の庭園まで、興味と関心次第で好きなことを学ぶ環境は用意されてきました。「中近世近江国甲賀郡柏木と在地土豪の研究」「浮世絵に見る近世後期の教育」「天明〜文化期の蝦夷地支配の変遷」	欧米文化研究分野を修了した院生には留学生や社会人も含まれており、多様なテーマについて研究し、修士論文を作成してきました。「文学改革論争から見るトルコ国民の形成(1869-1928)」「ベルニーニによってもたらされたサンピエトロの果たした役割」「持続可能性と都市交通」
取得可能な専修教員免許状	中・国、高・国	中・英、高・英	—	—	—

総合的な基礎科学の知識を備えた専門的職業人の養成

総合基礎科学専攻

目的

総合基礎科学専攻では、基礎科学の主要分野である数理科学、情報科学、自然科学を有機的に組織し、分野を超えた交流と連携のもとに、総合的な基礎科学の知識と素養を備えた専門的職業人の養成を目的としています。そのために、専攻に数理情報コース及び自然研究コースの2つの

コースを設け、数理・情報・自然科学の分野で高度で総合的な基礎科学の知識と素養をもって産業界のみならず国・地方の研究機関で活躍できる人材並びに教育の場において科学教育、数学教育、情報教育を担える指導的人材の育成を目指します。



取得可能な免許状

- 中学校教諭専修免許状〔数学、理科〕
- 高等学校教諭専修免許状〔数学、理科、情報〕

概要・特色

現在、科学技術の発展は以前にも増して著しいものがあります。情報科学では、ハード、ソフト両面とも日々進歩が見られ、自然科学においても、新素材、ナノテクノロジー、生命科学、環境科学などの各領域において革命的とも云える大発展を遂げています。更に、数理科学においては、これら各領域で見られる大変革を支える基礎構造としての領域に加え、数理科学固有の分野においても着実に進展を遂げています。そして、21世紀の科学技術は、今後ますます固有の領域に

とらわれず互いに競合し、かつ融合し合って発展していくものと思われれます。今後は、今までも増してその変革を担える人材の養成が不可欠となります。そのためには、様々な科学の領域の枠を超え、従来の専門領域にとらわれない視野を持つことのできる新しい人材の育成が期待されています。本専攻では、基礎科学の主要分野である数理科学・情報科学・自然科学の各領域をこれまでの学問の流れを尊重しつつも、それらを超えた

新しい観点から今日の科学技術を捉え直そうと、数理情報コースと自然研究コースを設け、有機的に科学を学ぶことにより、今日我々を取り巻く科学技術に関する諸問題に対し的確に対応できる人材の育成を目的としています。さらに、本学の伝統であり、重要な領域である学校教育へも数学・情報・理科の各分野について多様な貢献が果たせることを目指しています。



数理情報コース

数理分野

数理分野では、学部で学んだ基礎知識を基に、新たな数理科学の道を切り開く力を養っていきます。それと同時に、「確かな授業力を持った中学・高等学校の教員の養成」にも力を入れています。数理科学の研究対象は、基本的な構造を研究する「基礎数理科学」、離散現象を取り扱う「離散数理科学」、社会現象を解析する手段を学ぶ「数理システム科学」、「応用数理科学」の4つの研究分野からなります。指導の厳しさには定評があるコースですが、人類の英知を学び、確かな数理科学を習得したい人、また、学ぶことに意欲のある人を歓迎します。修了者の進路先としては、中・高等学校教員、情報産業、大学院後期課程(他大学)などがあります。

情報分野

情報分野は、電子工学と応用数学の結合により、1940年代のアメリカで誕生した学問です。ペンシルバニア大学で産声を上げたコンピュータは、現代社会を変革する「小さな巨人」に変貌を遂げました。ややもすれば、今日の情報科学は、単なる学問分野を超えた社会的インフラストラクチャに発展した印象が強いが、一方、学問としての情報科学の果たす役割は、これから益々重要となり、その社会的責任は限りなく重いと云えます。知能システム、計算機科学、応用情報学なる3つの分野において研究教育をおこなっています。これらの分野は、計算機の黎明期における情報・通信・制御の理論と技術が20世紀後半に進化し、様々な学問分野と結びついた研究成果です。情報科学は、普遍性を追及するとともに、社会のダイナミズムのなかでの問題解決を必要とするため、時代とともに考え、行動する、国際的に通用する情報科学者・情報技術者の育成を目指しています。なお、大学院生の進路としては、企業への就職、公務員、教員、大学院博士課程進学など多岐に渡ります。

自然研究コース

基礎物質科学分野

構造物質科学分野

機能物質科学分野

生体系構成論分野

宇宙地球圏システム論分野

自然研究コースは、5つの研究教育分野(基礎物質科学、構造物質科学、機能物質科学、生体系構成論、宇宙地球圏システム論)で構成されています。専任教員はそれぞれの専門領域や複合領域の研究に鋭意取り組むとともに、国内外の研究者と共同研究も行っています。

自然科学諸分野の理論と最新の実験・観測手法などを徹底した個別指導のもとで学習し、高度な専門知識と研究能力を備えた国際性豊かな研究者、教育者、技術者の育成を目指しています。以下に、本専攻で推進されている研究の分野と修了者の進路等を例示します。

【研究分野】

分子ナノ光学、磁気ナノ物性、物性基礎論、機能材料物性、有機合成化学、構造有機化学、分析化学、超分子化学、分子認識化学、蛋白質工学、化学生態学、微生物学、分子遺伝学、気象学、環境微生物学、地球化学、古環境解析

【修了者の進路】

博士課程(他大学)進学、企業研究所研究員、企業技術職、高等学校教員、地方公務員、博物館学芸員等

教員紹介

- 数理情報コース [教授] 芦野 隆一・平木 彰・町頭 義朗・森岡 達史・藤井 淳一・藤田 修・守本 晃
[准教授] 湯浅 久利・垣本 徹・望月 久稔 / [講師] 縄田 紀夫
- 自然研究コース [教授] 片桐 昌直・川越 毅・久保 公二・小西 啓之・鈴木 剛・谷 敬太・辻岡 強・広谷 博史・横井 邦彦
[准教授] 乾 陽子・鶴澤 武俊・喜綿 洋人・串田 一雅・堀 一繁・堀 真子

新しい時代における芸術文化のあり方を探究

芸術文化専攻

目的

芸術文化専攻では、音楽と美術という芸術の二大ジャンルにおいて、実践と理論との両面から新しい時代における芸術文化のあり方を探究するため、多様な今日的課題について教育研究を行い、高度な専門的知識・能力をもつ専門職業人を養成することを目的としています。そのために、専攻に音楽研究コースと美術研究コースの2つ

のコースを設け、それぞれの専門分野において、芸術一般への深い理解と高度な専門的素養とを兼ね備えた演奏家、造形作家、研究者や教育者、さらには芸術プロモーターやアート・マネージャーなど、社会的ニーズに応じて芸術文化の第一線を担い得る指導的人材を広く育成することを旨とします。



取得可能な免許状

- 中学校教諭専修免許状 [音楽、美術]
- 高等学校教諭専修免許状 [音楽、美術]

概要・特色

本専攻は、古今東西の芸術全般をあつかう専攻ですが、その柱となるのは音楽と美術という二大ジャンルです。そのため本専攻は、音楽研究コースと美術研究コースの2つのコースを設け、

それぞれの専門分野において、実践と理論との両面から、新しい時代にふさわしい芸術文化のあり方を探究しています。専門分野としては、音楽研究コースの下に「器楽」「声楽」「作曲」「音

楽学」という4つの研究教育分野が、美術研究コースの下に「造形表現」「書道」「芸術学」という3つの研究教育分野が置かれています。

音楽研究コース

器楽(ピアノ・弦楽器・管打楽器)
声楽
作曲

ヨーロッパ近代の音楽を基礎として、その演奏(解釈・表現)や創作に関する諸課題を追求しています。学生は各々専門の指導教員の研究室に所属して、表現の技法や技術について実践的なレッスンを受け、日々研鑽を積んでいきます。

音楽学

西洋近代の芸術音楽のみならず、広く世界の音楽文化を対象として、通時的・共時的な研究がなされています。

美術研究コース

造形表現

現代の状況をふまえ、柔軟な思考と鋭敏な感性とを養いながら創作活動をおこない、「何をどう表現するか」を追求しています。教員の専門分野は、絵画・立体・ビジュアルデザイン・映像表現などです。

書道

平安朝の古筆や中国の古典作品を鑑賞し、臨書しながら、さまざまな書美と表現スタイルの可能性を探究しています。

芸術学

洞窟絵画からアニメまで多種多様な作品を視野に入れて、体系的・歴史的な理論研究を行っています。美や芸術の問題を哲学的に考える美学研究や、ポストモダンの現代美術に対する批評研究などがなされています。



本専攻は、学部教養学科における芸術関連の諸分野を発展的に統合する形で、平成7年に誕生しました。ひとつの専攻内に、研究領域として「音楽」と「美術」とが併置され、また研究方法として「実践」と「理論」とが共存するという点で、全国的にみても極めてユニークな専攻です。つまり、第一線で活躍する音楽家、アーティストやデザイナーや書家が、気鋭の音楽学者や美術批評家や美学者と親しく交わる教育環境のなかで、音・色・形で演奏・制作する実践系の学生と、言葉で思索する理論系の学生とが、ともに学べる理想的な場所なのです。これは細分化・専門化する現在の研究状況からすると異例のことで、芸術の概念が広がり、ジャンルの境界線がぼやけてきた今日では、非常に重要なことです。

それぞれの分野にもユニークな点があります。音楽表現の各分野では、経験豊かな指導教員によるレッスンに加えて、研究成果の発表の場として器楽、声楽分野は学内でのオーケストラとの共演、室内楽演奏会、学外でのコンサートの開催やコンクール等での入賞、作曲分野においては学内でのオーケストラ作品の発表、学外での個展の開催など、活発な音楽活動を通して研鑽を積んでいきます。また修士論文の一環として、修了年度に演奏或いは作品の収録を行い、CDを制作し、今後はその録音のWeb上での発信も計画しています。

造形表現分野では、入学後より各自の研究テーマに応じて絵画・立体造形・ビジュアルデザインに所属し、研究・制作を展開します。また、定期的に全体講評会を行い、新たな表現に向けた領域横断的な視点の養成を図ります。研究・制作のために十分な時間と環境とが用意されているので、学生による個展やグループ展での作品発表なども、毎年積極的になされています。

書道分野では、入学直後から修士論文・修士制作へ向けた研究を授業またはゼミで積極的にを行い、各自の専門分野のレベルアップに特に努めています。また、それらの研究成果の発表の場として、一年目は年末に行う各ゼミの展覧会、二年目は修了制作展を設定しています。

芸術学・音楽学の分野では、各学生の研究が修士論文として結実するように、テーマの選択から資料操作の方法、論文の構成・展開、文章表現の技術にいたるまで、懇切丁寧な個別的指導がなされています。専門の書物や雑誌の閲覧はもとより、学科紀要への投稿など、研究を進めながら発表する機会が与えられており、幅広いスタッフから有意義な助言や刺激を受けられるのも、大きなメリットと言えます。

教員紹介

- 音楽研究コース [教授] 稲垣 琢磨・北川 文雄・神代 修・ト田 隆嗣・玉井 裕子・中務 晴之 / [特任教授] 志賀 美津夫
[准教授] 岡本 麻子・山畑 誠
- 美術研究コース [教授] 池田 利広・瀧 一郎
[准教授] 江藤 亮・五明 真・瀬川 賢一・寺島 みどり



個人と家族、地域、社会における健康で文化的な生活を探求

健康科学専攻 (天王寺キャンパス) (夜間)

目的

健康科学専攻では、心身の健康の維持・増進、その基盤となる安全、生涯にわたる発達や学習、その支援、高齢者の生活、生活環境、スポーツ実践など、様々な領域で日々新たに出てくる課題に取り組むため、高度な専門的知識と実践的能力を持つ専門的職業人の養成を目的としています。そのために、専攻に人間科学、健康生

活、スポーツの3つのコースを設け、学際的な環境で、主として現職の社会人を対象に、個人、家族、地域、職場における健康で文化的な生活の理論的・実践的課題について総合的に教育・研究を推進し、諸領域で指導性を発揮できる人材を育成することを目指します。



取得可能な免許状

- 中学校教諭専修免許状 [保健体育]
- 高等学校教諭専修免許状 [保健体育]
- 養護教諭専修免許状

概要・特色

科学技術、経済社会、情報システムなどの著しい発展により、人間をとりまく環境が大きく変貌し、伝統的な社会生活が急速に変わりつつあります。成長、発展、成熟、さらなる成長…という絶えざる変化において高学歴化・高齢化が進み、生涯学習社会・長寿社会に向かうことが不可避となってきました。これに伴い、健康、安全、発達、学習、支援、生活環境、スポーツなどの様々な

領域に新たな課題が生じてきています。それを達成するためには、人間の身体的・社会的・文化的環境、その安全と調和的な発展に関する、高度な専門的知識と実践的能力が求められています。また、このような人材は、職場や地域の活性化と創造的な革新・改革の担い手となります。本専攻は、個人、家族、地域、職場における健康で文化的な生活の理論的・実践的課題を、総合的・

学際的な研究に基づいて教育を行うことを目的に設置され、主として現職社会人を対象に夜間及び土曜日に授業を行い、様々な課題に即して、幅広い教養・見識とともに高度の専門的知識や研究能力を養うための能力開発、再教育、自己啓発の支援を行います。

人間科学コース

生涯教育学・図書館情報学
発達人間学
職業科学研究

健康生活コース

人間生態学研究
心身健康学研究
生活科学研究

スポーツコース

スポーツ研究

在籍する大学院生の大部分は社会人であり、企業等の健康開発部門や研修教育部門の担当者、生涯学習、社会教育、保健・助産・看護・医療・スポーツ関連分野の実務担当者、文化・医療・福祉等の行政に携わる人など多岐にわたっています。また学部出身の大学院生も在籍しています。このように職業も年齢も様々な大学院生が共に学び、交流を深めることによって新たな人間関係を構築することができます。入学時には、高い専門的技術を有する実務者であった方々が、修了後には、学問に対するモチ

ベーションの向上により大学等の教育・研究機関の教員となるケースもあります。また教員免許に関して、一種免許を持って入学した大学院生は保健体育(中学、高等学校)及び養護教諭の専修免許が取得可能です。昼間は社会人としての勤めを果たし、夜間に大学院で学び、さらには修士論文を作成するための研究を行う2年間はハードですが、修了後の達成感は何にも代えがたい貴重な体験、精神的な財産となるでしょう。

● 健康科学専攻の授業の実施方法

次のとおり平日は夜間に、土曜日は午後及び夜間に授業を行う。

平日	夜間2時限	18:00～19:30 / 19:40～21:10
土曜日	午後2時限	14:40～16:10 / 16:25～17:55
	夜間2時限	18:00～19:30 / 19:40～21:10

教員紹介

- 人間科学コース [教授] 新崎 国広・石橋 正浩・加藤 佳也・出相 泰裕・堀 薫夫 / [特任教授] 下村 陽一・山田 正行 [准教授] 安達 智子・高嶽 裕樹・寺坂 明子
- 健康生活コース [教授] 碓田 智子・永井 由美子・松本 鉄也 [准教授] 榎木 泰介・西川 章江 / [特任准教授] 柴田 亜樹
- スポーツコース [教授] 千住 真智子・西島 吉典・吉田 雅行・生田 泰志 [特任助教] 橋本 恒

平成31年度 大学院教育学研究科入学定員・現学生数・入試結果一覧

令和元年5月1日 現在

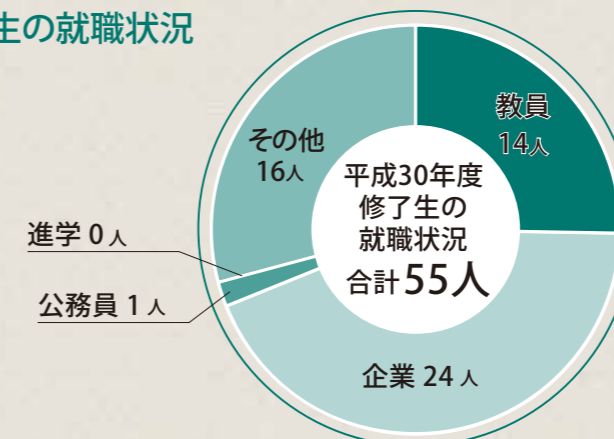
区分	入学定員	現学生数	1年次	2年次以降	志願者	受験者	合格者	入学者
国際文化専攻	12	16(6)	8(4)	8(2)	14(7) 1次 5(1) 2次 8(5) 3次 1(1)	12(6) 1次 4(1) 2次 7(4) 3次 1(1)	9(4) 1次 3 2次 5(3) 3次 1(1)	8(4) 1次 2 2次 5(3) 3次 1(1)
総合基礎科学専攻	16	25	14	11	21 1次 17 2次 2 3次 2	17 1次 14 2次 1 3次 2	16 1次 13 2次 1 3次 2	14 1次 11 2次 1 3次 2
芸術文化専攻	12	26	12	14	24(5) 1次 17(4) 2次 7(1)	21(5) 1次 17(4) 2次 4(1)	13 1次 10 2次 3	12 1次 9 2次 3
健康科学専攻(夜間)	21	56	22	34	36 1次 15 2次 21	34 1次 15 2次 19	23 1次 8 2次 15	22 1次 8 2次 14
合計	61	123(6)	56(4)	67(2)	95(12) 1次 54(5) 2次 38(6) 3次 3(1)	84(11) 1次 50(5) 2次 31(5) 3次 3(1)	61(4) 1次 34 2次 24(3) 3次 3(1)	56(4) 1次 30 2次 23(3) 3次 3(1)

(注1) ()内の数字は外国人留学生の人数(内数)です。(注2) 第3次募集は国際文化専攻、総合基礎科学専攻のみ実施しました。

大学院教育学研究科(修士課程) 修了生の進路

区分	H30 修了者の進路(R1.5.1 データ)							H29 修了者の進路(H30.5.1 データ)							H28 修了者の進路(H29.5.1 データ)						
	(大阪府内)教員	(大阪府以外)教員	企業	公務員	進学	その他	H30合計	(大阪府内)教員	(大阪府以外)教員	企業	公務員	進学	その他	H29合計	(大阪府内)教員	(大阪府以外)教員	企業	公務員	進学	その他	H28合計
国際文化専攻	0	1	3	0	0	2	6	0	1	2	0	1	1	5	3	0	4	0	0	6	13
総合基礎科学専攻	2	1	10	0	0	1	14	1	2	10	1	0	2	16	3	1	6	0	0	0	10
芸術文化専攻	4	2	5	0	0	4	15	2	4	6	1	0	4	17	2	3	12	0	0	3	20
健康科学専攻(夜間)	4	0	6	1	0	9	20	6	1	6	2	1	2	18	7	2	7	3	1	3	23
合計	10	4	24	1	0	16	55	9	8	24	4	2	9	56	15	6	29	3	1	12	66

平成30年度 修了生の就職状況



特別支援教育特別専攻科

特別なニーズのある子どもを理解し支援する高い実践力を備えた人材を育成

目的

特別支援教育特別専攻科は、特別支援教育の充実に資するために発達障がいや聴覚障がいはじめ様々な障がい領域に関する専門教育を行い、実践的な指導力のある教員を養成することを目的としています。特別支援教育の現場では、子どもたちの障がいの多様化、重度化、重複

化が進んでいます。また、通常の学校(通常の学級)においても、障がいのある子どもへの理解と支援が求められています。本専攻科では、インクルーシブ教育システム構築の観点から、子どもの個々の能力や個性、ニーズに応じた高度な教育支援を実践できる教員の育成をめざします。



概要・特色

特別支援教育特別専攻科の入学定員は30名となっています。修業年限は1年間で、出願資格である幼稚園・小学校・中学校・高等学校の教諭の普通免許状のいずれかを有する方は特別支援学校教諭一種免許状を取得すること

が可能で、この一種免許状を取得するために「発達障がい分野」と「聴覚障がい分野」の2つの分野が設定されています。本専攻科では通常の講義に加えて、教育現場における実習経験の機会を豊富に用意し、実践的な知識・

技能の習得を目指します。過去に大学等で特別支援教育を専門的に学んだ経験のない方も対象としていること、現職教員の方々と共に学ぶことも本専攻科の特色です。

●平成31年度 特別支援教育特別専攻科 入学定員・現学生数・入試結果一覧 平成31年4月1日現在

区分	入学定員	現学生数	志願者	受験者	合格者	入学者
特別支援教育特別専攻科	30	28	28	27	27	26

一種免許状(発達障がい分野)

幼稚園・小学校・中学校・高等学校のいずれかの普通免許状を有する人は、「知的障害者に関する教育」「肢体不自由者に関する教育」「病弱者に関する教育」の領域を定めた特別支援学校教諭一種免許状を取得することができます。

主な開講科目(必修科目)

特別支援教育総論、知的障害者の心理・生理・病理、肢体不自由者の心理・生理・病理、病弱者の心理・生理・病理、発達障害教育、発達障害指導論、聴覚障害教育、知的障害教育、知的障害指導論、肢体不自由教育、肢体不自由指導論、病弱者の心理・生理・病理、視覚障害教育、重複障害教育など

主な授業内容「発達障害指導論」

注意欠如多動性障がい、学習障がい、自閉症スペクトラムなどの発達障がいのある子どもの教育について、事例をまじえながら個々の特性に応じた指導法を具体的に学びます。

一種免許状(聴覚障がい分野)

幼稚園・小学校・中学校・高等学校のいずれかの普通免許状を有する人は、「聴覚障害者に関する教育」「知的障害者に関する教育」「肢体不自由者に関する教育」の領域を定めた特別支援学校教諭一種免許状を取得することができます。

主な開講科目(必修科目)

特別支援教育総論、聴覚障害心理、聴覚音声生理・病理、知的障害者の心理・生理・病理、肢体不自由者の心理・生理・病理、聴覚障害教育、聴覚障害指導論、知的障害教育、肢体不自由教育、病弱者の心理・生理・病理、視覚障害教育、発達障害教育、発達障害指導論、重複障害教育など

主な授業内容「聴覚障害指導論」

聴覚障がい幼児の教育の在り方を柱にしなが、子どもの発達、ことばの指導、聴覚学習などについて、実践的な内容を踏まえながら具体的な指導法を学びます。

※授業名称は平成31年度開講のものです。

●特別支援教育特別専攻科 取得可能な免許状

免許状の種類

特別支援学校教諭一種免許状※1

※1. 領域：発達障がい分野修了の場合は「知的障害者」「肢体不自由者」「病弱者」教育に関する領域、聴覚障がい分野修了の場合は「聴覚障害者」「知的障害者」「肢体不自由者」教育に関する領域が免許状に付記されます。

教員紹介

- [教授] 山本利和・富永光昭・井坂行男・西山健 / [特任教授] 金森裕治・須田正信
- [准教授] 平賀健太郎 / [特任准教授] 大内田裕 / [講師] 三益亜美 / [特任講師] 今枝史雄

長期履修学生制度

働きながら大学院へ! (修業年限3年)

職業を有している等の事情のため、標準修業年限(2年)で修了することが困難な方を対象に、修業年限を延長することにより計画的に教育課程を履修することができ、かつ、その間の授業料の年額の負担を軽減することができます。

なお、本制度が適用された方は、留学など長期にわたって本学大学院を離れた場所での修学ができない場合があります。長期履修学生としての申請に基づき審査を行い、許可された場合修業年限を3年とします。修学状況等の変動により、標準修業年限への短縮や、入学後(在学中)の長期履修の申請も可能ですが、この場合、1年次の所定期日までに申請を行い、翌年度からの適用となります。

〈申請資格〉

申請資格を有する方は、次のいずれかに該当する方です。

- ① 職業を有する方
- ② 育児、介護等の事情を有する方
- ③ その他研究科長が認めた方

〈授業料(年額)〉

大学が定めた授業料年額	×	標準修業年限(2年)	÷	最長履修期間(3年)
-------------	---	------------	---	------------

健康科学専攻(夜間)では、長期履修学生制度の適用を受けた入学者が毎年3人程度おられます。(過去3年実績)

入学料および授業料

平成31年度入学	入学料	入学時諸費用 (大阪教育大学校友会)	授業料(年額)
大学院	282,000円	50,000円	535,800円
大学院(長期履修学生制度の適用者)	282,000円	50,000円	357,200円
特別支援教育特別専攻科	58,400円	40,000円	273,900円

※「大阪教育大学校友会」は、教育研究活動、大学行事、課外活動、福利厚生、奨学金給付及び就職への支援など様々な学生支援事業を行うとともに、在学生を含む卒業生、修了生の同窓会活動への支援を行う組織です。入学時のみ必要な費用です。

※上記記載の金額は、平成31年度入学者の金額であり、令和2年度入学については、変更される場合があります。

※在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用されます。

※このほか、テキスト代や実習等の経費、課外活動等の経費は別途必要となる場合があります。

免除制度

一般選考

経済的理由により入学料・授業料の納付が困難であり、かつ、成績優秀と認められる方を対象に選考のうえ、入学料・授業料の全額又は半額が免除あるいは徴収が猶予されます。

特別入学料免除

本学大学院へ入学する方のうち、公立学校教員採用試験に合格し、かつ教育委員会から採用猶予等を許可された方を対象に選考のうえ、入学料の全額又は半額が免除あるいは徴収が猶予されます。

大学院における特別授業料免除

本学大学院に在学中で、学業成績等が優秀であると認められる方を対象に選考のうえ、授業料の半額が免除あるいは徴収が猶予されます。

(参考)平成30年度授業料免除実績

区分	免除率	前期		後期		免除額
		申請者数	免除者数	申請者数	免除者数	
大学院・専攻科	全額免除	88人	68人	92人	68人	34,606,750円
	半額免除		11人		15人	3,348,750円

障がい学生修学支援ルーム

障がい学生修学支援ルームでは、障がい等のある学生が他の学生と等しく教育を受けることができるよう、各種の修学支援に取り組んでいます。また、入学後に修学上の配慮を希望する方の事前相談にも応じています。

【問合せ先】 柏原キャンパス(C6棟2階)
072-978-3479(開室時間 8:30 ~ 17:15)

天王寺キャンパス(中央館204)
06-6775-6657(開室時間 13:00 ~ 21:30)

sienroom@bur.osaka-kyoiku.ac.jp(共通)

Access



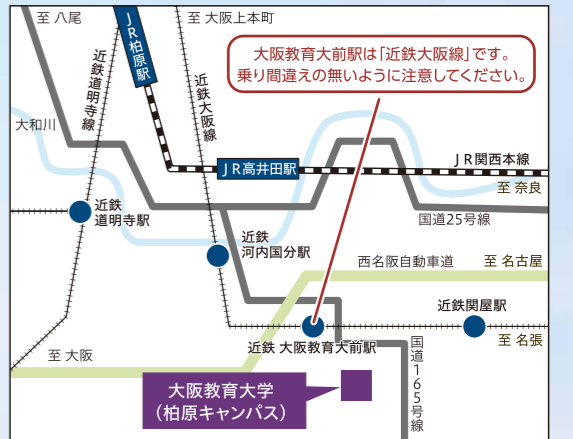
大阪教育大学(柏原キャンパス)

※下図では乗り換えに要する時間は記載していません。

新大阪	4分	JR大阪	16分	約15分
大阪方面		JR大阪環状線外回り 京橋・鶴橋方面		徒歩(約1km) 大教大名物のエスカレーターがあります。
三ノ宮	24分	JR大阪	16分	
JR神戸線新快速 大阪方面		JR大阪環状線外回り 京橋・鶴橋方面		
神戸三宮	48分			
		阪神本線快速急行		
JR京都	28分	JR大阪	16分	
JR京都線新快速 大阪・神戸方面		JR大阪環状線外回り 京橋・鶴橋方面		
丹波橋	33分	京橋	7分	
京阪本線特急 淀屋橋方面		JR大阪環状線外回り 鶴橋・天王寺方面		
大阪難波	5分			
		近鉄奈良線 大和西大寺方面		
岸和田	28分	新今宮	8分	
南海線急行 なんば方面		JR大阪環状線内回り 天王寺・鶴橋方面		
関西空港(鉄道)	33分	天王寺	8分	
JR特急はるか		JR大阪環状線内回り 鶴橋・京橋方面		
和歌山	75分	天王寺	8分	
JR直通快速 天王寺行き		JR大阪環状線内回り 鶴橋・京橋方面		
JR奈良	16分	王寺	12分	
JR大和路線快速 大阪方面		JR大和路線 難波方面		
大和西大寺	22分	柏原	約7分	
近鉄橿原線急行 橿原神宮前方面		徒歩(550m)		
近鉄名古屋	116分	堅下	7分	
近鉄名古屋線特急 大阪難波方面		近鉄大阪線区間準急 名張方面		
津	14分	伊勢中川	73分	
近鉄名古屋線 伊勢中川方面		近鉄大阪線快速急行 大阪上本町方面		

意外と近いかも!
キャンパスまでのルートが最寄りの駅から調べてください。

大阪上本町駅から
大阪教育大前駅まで近鉄電車で**23分**
JR大阪環状線鶴橋駅から
大阪教育大前駅までなら**19分**



大阪教育大学(天王寺キャンパス)

※下図では乗り換えに要する時間は記載していません。

大阪教育大前	30分	鶴橋	4分	約5分
近鉄大阪線区間準急 大阪上本町方面		JR大阪環状線外回り 天王寺・井天町方面		徒歩(約350m)
大阪	20分			
JR大阪環状線外回り 京橋・鶴橋方面				
京橋	12分			
JR大阪環状線外回り 鶴橋・天王寺方面				
JR奈良	35分			
JR大和路線快速 大阪方面				
神戸三宮	31分	西九条	16分	
阪神本線快速急行 近鉄奈良方面		JR大阪環状線内回り 井天町・天王寺方面		

大阪市内中心地 天王寺駅から約600m (寺田町駅から350m)





国立大学法人

大阪教育大学

<https://osaka-kyoiku.ac.jp/>

大阪教育大学 学務部入試課

〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1

TEL072-978-3323